バックパック旅行記⑬

パリまり（パリ在住）

バールのピザ

　ホテル代がかなり高騰しているので、安宿を探すのだが、かなり不便な場所になってしまう。一人旅をする割には自他共に認める方向音痴である。以前友人と一緒にヴェネツィアに行った時の事、自身10回は来ているのに初めて来た友人に地図を渡して「はい、よろしく」という私だ。その友人が実家に遊びに来た時、母に「お母さん、マリさんは道２回曲がったら終わりですよ！」と報告していた。地図は回さなければ理解出来ない。確認して「こっちだ」と向かった方向が反対なのは当たり前。今はスマホがちゃんと誘導してくれるのに、違った道を行き訂正される。宿から一歩出たらもう迷子という感覚で歩いている。同行者がいたら丸投げで自分で地図をチェックしようともしない。しても間違っている可能性大なので、かえって迷惑をかける。みんなに呆れられているのだが「行って無事帰って来れてるって事は何とかなってる事よ」と開き直っている。ヴェローナでもスマホ頼りに暗くなって来た道を延々と歩くが、何やら人気のない所に出てしまい、何度も住所を確認する。やっと到着したと思ったら、カトリック系の宿泊施設らしくホテルのような入口がなく、住所の道を行ったり来たりを繰り返し、何とか受付時間終了の20h前に滑り込めた。その日は大晦日、5分程歩いた所にレストランが1軒あったのだが、面倒臭いので部屋で夕食を取ることにする。こういう時のためにカップラーメンとアルファ米のビビンバとミニ湯沸かし器を持って行っていた。丁度年越しそばになっていいと、ラーメンのお湯を沸かそうとするが、何とコンセントが合わない。前日のホテルでは使えたのに何故？お湯が沸かせないとラーメンが食べられないではないか。お湯を貰おうにも受付にもう人はいない。『電車の中で物乞いにお菓子をあげなければよかったな』などと思いつつ、アルファ米はお湯で10分、水で40分で出来ることに気が付いた。水を注いで待っている間に、家で大晦日のパーティーをしている友人からご馳走の写真が届く。美味しそうな料理が並んでいるが、一週間前に彼女の家でクリスマスディナーを頂いた身としては、毎週ご馳走を作らなければいけない友人に同情する。案の定力を使い果たした彼女から「もうしばらくは何も作りたくない」とのメッセージが届く。『その点独り身は気楽よ～』と冷たいビビンバで年越しをした。

ローマ時代の遺跡